縄文時代

名前

問1　縄文時代における人々の生活環境の変化と、道具の使用に関する説明として最も適切なものはどれですか。（2016年 富山県公立入試 類似）

1. 有力な首長が各地に出現し、集落を守るための環濠や、身分を象徴する豪華な副葬品としての土器が作られた。
2. 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。
3. 氷河期の影響で大型の獣を追う移動生活が中心となり、獲物を仕留めるために磨製石器が初めて登場した。
4. 大陸から稲作が伝来したことで、収穫した穀物を大量に貯蔵するための薄くて赤褐色の土器が広く普及した。

問2　日本の古代文化における「土偶」と「はにわ」の違いについて、時代背景と目的の観点から説明したものとして正しいものはどれですか。（2026年 千葉県公立入試 類似）

1. 土偶は弥生時代に大陸から伝わった青銅器の一種であるが、はにわは飛鳥時代に仏教とともに伝わった石像の技術で作られた。
2. 土偶は縄文時代に作られ、豊穣や魔除けを祈る呪術的な道具であったが、はにわは古墳時代に作られ、古墳を飾り立てるためのものであった。
3. 土偶は権力者の死を悼むために古墳の内部に納められたが、はにわは狩猟の成功を願って森の入り口に置かれた。
4. 土偶は写実的な人物像として奈良時代に完成したが、はにわは縄文時代に土器の蓋として実用的に使われていた。

問3　縄文時代につくられた素焼きの人形で、豊かな収穫や病気の回復、魔除けなどを祈るために用いられたとされる遺物を何といいますか。（2026年 熊本県公立入試 類似）

1. 石包丁
2. 土偶
3. 銅鐸
4. 埴輪

問4　三内丸山遺跡の調査結果から推測される、縄文文化の生活や社会の様子について正しく説明しているものはどれですか。（2024年 福島県公立入試 類似）

1. 大規模な灌漑設備を用いた水田稲作が普及し、食料を蓄えるための高床倉庫が主流となった。
2. 前方後円墳などの巨大な墳墓が築かれ、広域を支配する強力な王権が誕生していた。
3. 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。
4. 大陸から青銅器や鉄器が伝わり、武器や祭具として使用されることで集落間の争いが激化した。

問5　紀元前2000年ごろ、世界でインダス文明が栄えていた時期の日本列島における生活の様子を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 愛知県公立入試 類似）

1. 金属器が伝来して武器や祭祀の道具として使われ、有力な王を葬るための巨大な前方後円墳が築かれた
2. 土器はまだ作られておらず、ナウマンゾウなどの大型の獲物を追いながら移動して生活していた
3. 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた
4. 薄手で硬い赤褐色の土器を用いて食料を保存し、大規模な水田での稲作を中心とした生活を送っていた

問6　縄文時代に作られた土偶の中には、わざと体の一部を壊した状態で発見されるものが多くあります。このような特徴から推測される、土偶が作られた目的として最も適切なものはどれですか。（2023年 香川県公立入試 類似）

1. 病気や怪我のある部分を壊すことで、その痛みを土偶に引き受けてもらおうとする身代わりの願い。
2. 大陸から伝わった高度な彫刻技術を模倣しようとして、失敗したものを廃棄した残骸。
3. 集落間の争いにおいて、倒した敵の姿を土偶に投影し、戦勝を記念して破壊する儀礼用。
4. 土器を作る技術が未熟であったため、焼成の過程で自然に壊れてしまうことを前提とした観賞用。

問7　縄文時代の人々の暮らしと文化についてまとめた資料によると、当時の人々は磨製石器などの道具とともに、土器を作り始めました。縄文時代において、土器が果たした主な役割として適切なものはどれですか。（2018年 徳島県公立入試 類似）

1. 金属を溶かして、より強力な武器を作るため
2. 大陸との交易において、貨幣の代わりとして使用するため
3. 木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするため
4. 大規模な稲作を行うための、種もみを長期間保管するため

問8　縄文時代には、重く割れやすい土器や土偶の制作、長期間の生活痕跡である貝塚の形成といった文化がみられます。これらの文化が形成された背景となる当時の人々の生活様式について、最も適切な説明を選びなさい。（2026年 熊本県公立入試 類似）

1. 本格的な水稲耕作を行い、大規模な環濠集落をつくって暮らしていた。
2. 支配者の権力を示すために、巨大な古墳を造営して周辺で暮らしていた。
3. 大型の野獣を狩猟するため、獲物を追って各地を移動しながら暮らしていた。
4. 竪穴住居などを拠点とし、一定の場所に定住して暮らすようになった。

問9　縄文時代の遺跡に関する調査報告において、「集落の近くから丸木舟が発見されたこと」と「大規模な貝塚が形成されていたこと」が同時に示される場合があります。これらの事実から導き出される、当時の人々の生活背景として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 大分県公立入試 類似）

1. 稲作が普及したことで定住が進み、余った食料を貯蔵するために大規模な施設を作った。
2. 大陸との公的な交易を行うため、大型の船を建造して組織的な外交を行っていた。
3. 集落間の争いが激化したため、外敵の侵入を防ぐ目的で集落の周囲に堀を巡らせた。
4. 海や川の資源を積極的に利用しており、漁労が生活を支える重要な手段であった。

問10　日本の歴史において、縄文時代に定住生活が始まり、生活が安定する中で普及した、表面をみがいて形を整えた石器を何と呼びますか。（2018年 徳島県公立入試 類似）

1. 打製石器
2. 青銅器
3. 鉄器
4. 磨製石器

問11　縄文時代の遺跡からは、女性をかたどったとされる土偶など、当時の精神文化を反映した遺物が多く発見されています。これらの遺物が作られた目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）

1. 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた
2. 身分の高い人物が亡くなった際、その墓である古墳に副葬品として納めるために作られた
3. 稲作が普及し、収穫した米を保存するためのまじないとして作られた
4. 大陸との交易において、有力者が自分の富や権力を誇示するために作られた

問12　縄文時代の人々は、竪穴住居に住み、狩りや漁、採集を行って生活していました。こうした生活の中で、食べた後の貝殻や動物の骨、役目を終えた石器や土器などが一定の場所に積み重なって形成された、当時の生活を知るための重要な考古学的資料となる遺跡を何と呼びますか。（2018年 香川県公立入試 類似）

1. 古墳
2. 環濠集落
3. 貝塚
4. 高地性集落

問13　ある中学生が地元の歴史博物館で調べた内容をまとめた報告書の中で、「市内で発掘された、表面に縄を転がしたような模様がある土器」について記述しています。一万数千年前から紀元前数世紀まで続き、このような土器を使って狩猟・採集・漁労を主とする生活が行われていた時代を何といいますか。（2016年 富山県公立入試 類似）

1. 縄文時代
2. 弥生時代
3. 旧石器時代
4. 古墳時代

答え合わせ・解説

問1	答え 2 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。	縄文時代は地球の温暖化に伴い、木の実などの植物性食料や魚介類が安定して得られるようになりました。これにより人々は竪穴住居を作って定住するようになり、硬い木の実を煮てアクを抜いたり、煮炊きをしたりするための道具として土器が重要な役割を果たすようになりました。選択肢にある稲作の普及や薄手の土器（弥生土器）は、その後の弥生時代の特徴です。
問2	答え 2 土偶は縄文時代に作られ、豊穣や魔除けを祈る呪術的な道具であったが、はにわは古墳時代に作られ、古墳を飾り立てるためのものであった。	縄文時代の土偶は、自然の恵みを祈る宗教的な役割を持っていました。これに対し、はにわは古墳時代の巨大な墳墓（古墳）に伴うもので、権力者の葬儀や古墳の区画を示すために立てられました。両者は見た目が似ている場合がありますが、狩猟採集中心の縄文時代と、大規模な身分差が生じた古墳時代という社会構造の違いを反映しています。
問3	答え 2 土偶	縄文時代につくられた素焼きの人形は土偶と呼ばれます。豊かな収穫や魔除けなどを祈る道具として用いられました。古墳時代につくられた埴輪や、弥生時代につくられた銅鐸との違いを押さえることが大切です。
問4	答え 3 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。	三内丸山遺跡からは、栗の木の栽培や魚介類、獣の骨などが大量に出土しており、自然の恵みを巧みに利用して安定した生活を送っていたことがわかっています。水田稲作や高床倉庫、金属器の利用は主に弥生時代以降の特徴であり、巨大な古墳の造営は古墳時代の特徴です。この遺跡の発見は、縄文人が原始的な移動生活をしていたという旧来の説を覆し、高度な定住社会を築いていたことを証明しました。
問5	答え 3 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた	この時期の日本は縄文時代にあたります。人々は縄文土器を使って、植物の採取や狩猟で得た食料を煮炊きして食べるようになりました。また、地面を掘り下げて柱を立て、屋根を葺いた「竪穴住居」を作ることで、定住的な生活が営まれていました。他の選択肢は、弥生時代、古墳時代、旧石器時代の特徴です。
問6	答え 1 病気や怪我のある部分を壊すことで、その痛みを土偶に引き受けてもらおうとする身代わりの願い。	土偶の多くが女性を模しているのは、新しい生命を生み出す女性の力が、大地の豊かな実りと結びつけられていたためと考えられています。また、出土する土偶の多くが破損している理由については、自分の病気や怪我の場所と同じ部分を壊すことで、回復を祈る「身代わり」としての呪術的な儀式に使われたという説が有力です。これは当時の人々にとって、土器作りや土偶作りが生活に密着した切実な信仰の一部であったことを示しています。
問7	答え 3 木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするため	縄文時代、人々は定住生活を送る中で、採集した木の実や捕らえた獲物を調理する必要がありました。土器の出現によって、食料を「煮る」ことが可能になり、それまで食べられなかった硬い食材が食べられるようになったほか、食料の保存性も高まりました。
問8	答え 4 竪穴住居などを拠点とし、一定の場所に定住して暮らすようになった。	縄文時代には、竪穴住居をつくり一定の場所に定住する生活へと変化しました。移動しながらの生活では持ち運びが困難な土器や土偶の利用、長年のゴミ捨て場である貝塚の形成は、この定住生活と深く結びついています。
問9	答え 4 海や川の資源を積極的に利用しており、漁労が生活を支える重要な手段であった。	丸木舟は水上移動や漁具として使われ、貝塚には魚の骨や貝殻が大量に含まれていることから、当時の人々が自然の恵み（特に水産資源）を巧みに利用して生活していた背景がわかります。組織的な外交や本格的な稲作、集落を守るための堀（環濠集落）などは、主に弥生時代以降に顕著になる特徴です。
問10	答え 4 磨製石器	旧石器時代には石を打ち砕いただけの打製石器が使われていましたが、縄文時代に入ると用途に合わせて表面をみがき、形を整えた磨製石器が普及しました。この変化は、定住生活の開始や土器の使用といった生活様式の大きな転換と密接に関わっています。
問11	答え 1 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた	縄文時代は、狩りや漁、採集による生活であり、自然の状況に食料確保が左右されました。そのため、土偶などの遺物は、子孫繁栄や獲物の増加、病気の回復といった切実な願いを込めた呪術的な道具として用いられたと考えられています。
問12	答え 3 貝塚	縄文時代に見られるこの遺跡は、当時の人々が食べ残したカスや壊れた道具を捨てた場所が堆積してできたものです。貝殻に含まれるカルシウム成分の影響で、本来なら土中で分解されやすい魚や獣の骨が保存されやすいため、当時の食生活や自然環境を解明するための貴重な手がかりとなります。
問13	答え 1 縄文時代	氷河期が終わり、気候が温暖になったことで、日本列島では弓矢を用いた狩猟や豊かな海産物をとる漁労、木の実の採集が盛んになりました。この時代に使用された、表面に縄目の文様がある土器は「縄文土器」と呼ばれ、食料を煮炊きしたり保存したりするために活用されました。